

教職員研究チーム活動状況報告書

代表者の所属・職・氏名	加古川市立鳩里小学校	研究チーム名
	職・氏名 教諭 寺井 美幸	(新コミュニケーション能力開発)

研究テーマ分類番号 (1)

(1) 研究テーマ	
未来を拓くコミュニケーション能力の育成	
(2) 研究経過及び具体的な取組	
7月1日(金)	<p>研究授業 及び 事後研究会</p> <p>単元名：人物の生き方を考えながら読もう 「海のいのち」</p> <p>授業の具体</p> <ul style="list-style-type: none"> ①長編の文章ですぐには課題について見つけることができない児童のために、事前にワークシートを配布して記入する活動の設定 ②グループで意見をまとめる際に、話し合いの視点がずれないように、根拠となる文章表現に着目するように促す場の設定 ③ワークシートの段階で文章がなかなか見つけられない児童が、根拠をもって説明する友達の意見を聞くことで、自分の意見として取り入れられる場の設定 <p>成果等</p> <ul style="list-style-type: none"> ①事前のワークシートの記入が有効である。これは、本時に解決すべき課題に対しての自分の考えを、整理して授業に臨むことができ、児童が自信をもって発表できたからである。 ②細かい文章表現に目を向けるように支援していくことは、グループでの話し合いにおいて有効な手立てであることがわかった。これは、本文の表現に着目し、自分の考えを発表することにつながったからである。 ③参考となる友達の意見を取り入れていくことで、深く追究していくようになると考えられる。 <p>このように、ワークシートを吟味し、根拠となる文章表現に着目させることで、話し合いが活発になり、コミュニケーション能力の育成ができると考えられる。</p>
10月13日(木)	<p>研究授業 及び 事後研究</p> <p>単元名：動物と人間のかかわりをえがいた物語を読もう 「大造じいさんとがん」</p> <p>授業の具体：</p> <ul style="list-style-type: none"> ①登場人物の気持ちの変化を確かめる際、根拠となる登場人物の行動や、擬態語、色彩語、比喩表現といった修辞法も教科書の文中から抜き出して、話したり書いたりする力を伸ばしていく場の設定 ②友達の考えと自分の考えを比べて、同じところや違うところなどに着目して聞き、話す場の設定 <p>成果等</p> <ul style="list-style-type: none"> ①本の紹介をする「本の帯を作ろう」という目的意識をはっきりと示した

ため、主体的に活動でき、読書への関心を高めることにつなげることができた。

②根拠となることを話したり、書いたりすることを繰り返し行った。頭の中の漠然とした考えを、友達に話す、まとめて書くという活動をするすることで、自分の考えをより明確にすることができた。

③話し合い活動の前と後の考えがどう変わったかを意識させることによって、友達の意見を注意深く聞く姿勢が育っていくと考えられる。

このように、友達の意見のよいところを取り入れて、自分の考えを伝えていくことで、一人ひとりの学びが深まり、学習者主体の活動になると考えられる。